

令和元（2019）年度 第3回「やまの健康」推進懇話会

議事要録<要約版>

- 日 時：令和元（2019）年10月24日（木） 13：00～16：00
- 場 所：大津合同庁舎 7-A会議室（滋賀県大津市松本1-2-1）
- 参加者：<委員>藤山座長、清水委員、鶴飼委員、藤岡委員、山口委員
<滋賀県>石河部長、高木次長、廣瀬課長、櫻本主幹、田中主査

(1) 開会

(2) 話題提供①「志のあるお金で地域をつなぐ～東近江三方よし基金～」

<山口 美知子 委員（東近江市職員，公益財団法人 東近江三方よし基金）>

地方自治体の財政状況が厳しくなっている中、地域外への資金流出に危機感を感じ、地域の中のお金を回していくという発想で東近江三方よし基金を設立。「地域資源の活用による魅力向上」「地域資源の再評価による保全」「ソーシャルキャピタルの醸成」を目標とした地域の活動事例と目指す姿として掲げる「ローカルインパクト→ESG投資」について話題提供。

(3) 話題提供②

<清水 陽介 委員（NPO法人 湖北エコ村デザイン協会 理事長，エコワークス代表）>

やまで実際に働いている視点から、「備蓄」は材料を備蓄するだけでなく、技術や職人としてのポジションを作っていくことで、「震災支援」や「人材確保・育成」、「エネルギー」、「人口減少問題」といったキーワードに取り組みめるのではないかとという提案と共に、自身のやまのでの取組事例、日本のやまにおける現状と将来について予感できることについて話題提供。

(4) 話題提供③

<藤山 浩 座長（(一社)持続可能な地域社会総合研究所 所長）>

循環型社会（自然の元本で暮らす）に向けて、島根県における現在の状況（地域診断）、過去の状況（石高マップ）を把握した上での取組事例や海外の事例などについて話題提供。

(5) 話題提供④「滋賀県の森林の状況と森林資源について」

<滋賀県琵琶湖環境部森林政策課 廣瀬課長>

滋賀県における森林・林業の状況を「所有形態：滋賀は国所有ではない森林が多い」「年齢別面積の推移：木が今後高齢化していく」「素材生産量の推移：平成20年頃から生産量が増えてきた。政策的な要素が大きい。」について表を用いて紹介し、「労働生産性：(全国と比べ)生産性は低い状況」「製材工場：(全国と比べ)中小規模の工場が多い」「素材生産・需要量：(全国と比べ)木材チップが多い」については全国と滋賀について比較し、滋賀県における森林・林業のプラス・マイナス要素について話題提供。

(6) 「やまの健康」(仮)構想素案の共有(議論経緯)

<(一社)コミュニケーションデザイン機構>

これまでの2回の懇話会の中で発言された内容を基に構想骨格を作成し、タイトルとサブタイトルはそれらを踏まえ、仮案として資料5の1ページ目に記載した。

また、県民アクションガイドの2ページ目は、懇話会だけでなく、地域プラットフォームでの意見交換や座長との事前打合せの内容も盛り込んで作成した。最終的な図なども加圧用シテ分かりやすく伝えていくようなものに仕上げている。

(7) 「やまの健康」(仮)構想提案に向けた論点整理

<(一社)コミュニケーションデザイン機構>

人との関わりをどのように増やしていくかを重点として将来のアクティビティに繋げることについて意見交換をしていただければと思う。具体的には県民アクションガイドの「③」「⑥」「⑤・⑦・⑧・⑨」「⑩」について意見交換をしていただければと考えている。

(8)「やまの健康」(仮)構想提案に向けた意見交換<進行:藤山座長>

○委員からの話題提供を踏まえ、現時点の「県民アクションガイド」構想について「人との関わりを増やす」という視点で意見交換。

●県民アクションガイド③「都市の暮らしを支える「やま」の役割を考えよう」について

鶴飼: 1450万人の水瓶である琵琶湖の水源を管理している山であるということはインパクトあると思う。ここだけは外さないでいただきたい。

藤岡: (一読み手として考えた時) もう少しワクワクするような内容があるといい。

藤山: このようなこともできるのでは?という要素があった方がいい。

鶴飼: 水源林のツアーといった楽しみの要素を例示してはどうか。

清水: 森林と関わるような内容があるといい。前回の懇話会で藤岡委員が発言されていた複数接触することによる効果は高まるということもあったので皆さんで作るような呼びかけがあれば。

●県民アクションガイド⑥「小さくとも経済を動かそう」について

鶴飼: 読み手に取って分かりやすい多様な事例があるといい。例えば、西栗倉村であるとお金を回そうという意識がある。このセクションはもっとボリュームを取ったほうがいい。

清水: 私の住んでいる地域ではマイナス要因が多い。また、何をやったらいいか分からないという人が多いので、そのような人にマッチするようなものが例示されていれば。

藤山: 地域に根差したビジネスという感じだろうか。

●県民アクションガイド⑤⑦⑧⑨ やまへの人の係わりに関する内容について

- ⑤「やま」を守り・活かす活動をスタートしよう ⑦都市と農山村の交流を進めよう
⑧地域の活動のつながりを地域外へも拡大させよう
⑨「やまの健康」の取り組む県民ムーブメントのかたちを描こうについて

鶴飼: ⑥の話を考えていった時に、⑦とか⑧とか⑤とかも関係してくるので細かく区切る必要はないのではという話になる。「気づき考える」「知る」「やってみる」の3つぐらいでいいのでは。

藤山: 前半(③~④)は考える、その後(⑤~⑩)はやってみる、繋ぐ、土台を整えるという感じはどうか。

清水: 田舎の若い人材は未来を語れないことが多い。ただ、活動するための拠点がないことも要因。作るとみんな集まってくるような予感がする。

鶴飼: (木を植える活動を通じて) 子供の成長と併せて木が(私たちの生活の中で)どのように関わっていくか分かるものがあるといい。

清水: 備蓄の木は乾かないと使えないのでいきなり着工となってもなかなか難しい。ただ需要はあるのでどう関係者を繋ぐか重要。

鶴飼: 中部では都市の木質化プロジェクトというのをやっている。ベンチを置いて自然に乾燥させている。町の低炭素化とともに取り組んでいる。

山口: これまでも色んな施策をやってきた。「繋ぐ→イベント」という流れは本当に実現する姿になるのかは気になる。おそらくお金の話を置き去りにしてきたから。今森に興味を持っていない人にどう目を向けてもらうか。鶴飼委員が言われた経済の話は必須なのでお金の注力してもいいのではないか。それが都会の人や若い人と(必然的に)繋がっていくのではないか。ただこれには仕組みが必要だと思う。

藤山: これからの50年・100年を考え、都市を含めると先行投資ということになるのだろう。

山口: kikittoの活動を始めた時に木は安いのに知らない人が多かった。そしてその作業が大変だということが分かって、そこに何を伝えるか誰に喋ってもらうかということはずいぶん考えた。

清水: 「うみのこ」「やまのこ」を通り越した取り組みが必要。最近の若い世代は頭で走っていても現場での経験が少ないため。

●県民アクションガイド⑩(仮)構想案の名称について

鶴飼: 「マザーレイク」「ファザーフォレスト」「やまの健康」という名称はどうか。

藤山: 私も同感。セットで表現することが望ましい。

藤岡: 私も同感。

閉会挨拶<滋賀県琵琶湖環境部長 石河 康久>

以上